

1 産地の概要

＜対象地域＞ 山梨市 他11市町

＜対象品目＞ ブドウ

＜産地の現状・課題＞

当地域のブドウの収穫量は33,092tと一大産地を築いている。果樹栽培は特定の時期に管理作業が集中する集約的農業であるとともに、経験や勘による高度な技術である「匠の技」も多いことから、管理作業の省力化とともに、技術の見える化を図ることが産地の維持発展のために求められている。

また、IoTやAIなどを活用したスマート農業の取り組みは一部農家で行われているが、地域に広くスマート農業を実装するには農業者の間に温度差があるのが現状である。

2 検討体制

＜やまなし果樹地域スマート農業推進協議会構成員と役割＞

山梨大学（役割：環境制御分野に係る指導、助言）

JA全農やまなし（役割：モデル実証ほ場の情報提供、革新計画への助言）

株式会社 YSK e-com（役割：通信・システムに関する手配、技術指導）

山梨県指導農業士会（役割：果樹技術実証ほ場の課題解決への助言）

山梨県普及指導組織（役割：果樹産地振興への助言）



無人除草機の現地検討会の様子

スマートグラスを用いた摘粒作業の様子

3 新たな営農技術体系への転換

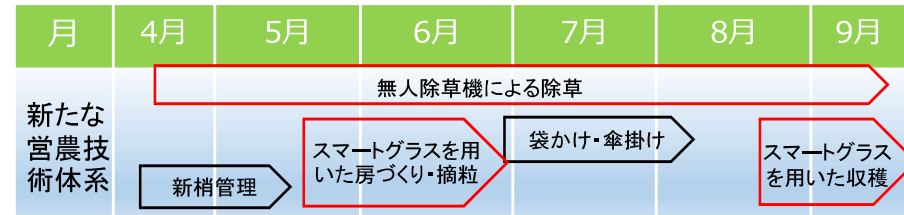
＜目指す産地像＞

AIを活用して房づくりや摘粒作業など熟練農業者の持つ高い技術を「見える化」するなど、国や県の新たなスマート農業技術の実証・実装の成果等から、本県のブドウ栽培に適応する技術を導入した産地。



① 除草 → 無人除草機導入

② 房づくり・摘粒 → AIによるスマートグラス導入



＜新たな営農技術体系の効果（検証結果）＞

無人除草機による除草 【現状10a・1回あたり】70分 → 43分

約4割↓

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

取組主体	R 3	R 4	R 5
山梨大学	環境制御分野に係る指導、助言		
株式会社 YSK e-com	通信・システムに関する手配、技術指導		
普及指導組織	果樹産地振興への助言、技術の普及		